

エンタメ企業×医療現場で生み出す 健康寿命の延伸を実現する パチンコ・パチスロの可能性

特別座談会

楽しみながら 心と体の機能を高める

奥山 パチンコやパチスロは長く日本人に愛されてきた娯楽ですが、最近では認知機能や身体機能を高める可能性があると感じています。団塊の世代が75歳を超えるようになり、健康寿命の延伸が社会課題となっていますが、本日はパチンコ・パチスロなどを活用した健康長寿の可能性について議論をしていきたいと思っています。

船山 従前、パチンコ・パチスロに対しては「ギャンブル」という見方もありましたが、実は玉の動き方やスロットの数字を目で追いかけて確認し、反射的に運動する——という、ある種、スポーツ的な一面もあります。我々はその特性に着目して、2020年ごろか

ら「P.SPORTS」という考え方を広めてまいりました。

4年ほど前からは専用機を使って技術や運、団結力を競い合う全国規模の大会も開催しています。個人戦と団体戦があり、上位入賞者には賞金も出ます。このような取り組みを経て、大衆娯楽の代表格であったパチンコ・パチスロが、近年では新たなスポーツとしても発展しつつあります。

さらにパチンコ・パチスロのエンタメ性と運動機能を強化できるという特性を活かし、2023年ごろからは楽しみながら反射神経を鍛えられる高齢者向けの筐体の研究を進めています。

東京通信大学の佐藤三矢先生から、どこをどう工夫したら、もっと効果的に鍛えられる筐体をつくれるか、具体的な意見をいただき



をつくるのが、絶対に出来ますよね」という話で盛り上がったものでした。

柔道整復師の知り合いと麻雀をしたときにも、同じ話題になりました。「パチンコ・パチスロは身体機能・認知機能を上げてくれる」

「僕たちがつくったらきつと良い台が出来るだろう」という意見が多かったため、健康寿命を延ばすことができるパチンコ・パチスロの登場に期待していたものです。

もちろん、当時はその開発に自分が携われるとは夢にも思っていませんでしたが、あれから20年以上経ち、サミーさんから開発のアドバイザー（監修者）になってほしいとお誘いが来ました。「これはもう関わるしかないな」と心が躍りました。

奥山 佐藤先生はパチンコ・パチスロをリハビリ等に活用することのメリットとして、どんな点を高く評価していたのですか。

佐藤 熱狂（没入体験）を生み出すところですね。私自身、大負けして痛い思いをしたこともありましたが、それでもやめようとはあまり思いませんでした。だからこそ、パチンコ・パチスロが持つ面白さを実感していますし、これだ



TNサクセスコーチング株式会社 代表取締役

奥山美奈

おくやま・みな ●看護師、高等学校教諭を経て、2008年、TNサクセスコーチングを設立。病院、診療所や介護施設、訪問看護ステーション、企業の教育支援を行う教育コンサルタント。人事評価制度構築や院内コーチ認定、各種プロジェクトチームの指導も行う。「辞めない人を紹介する」を理念に人財紹介・派遣事業も手掛ける。

ながら研究を続けてきました。佐藤先生からは、難易度の設定や要介護度が高い人でも楽しめる工夫など、長年現場で高齢者のリハビリテーションを実践してきた専門家の視点から貴重なアドバイスを多くいただきました。

奥山 パチンコ・パチスロを使って、楽しみながら健康寿命を延ばそうというのは非常に面白い発想ですね。どのようなきっかけで思いつかれたのですか。

船山 自分の父親も義父もパチンコ・パチスロ好きだったことがきっかけです。今後、高齢者施設に入ってくる世代の人たちにとってパチンコ・パチスロは身近な存在であり、「ウケる」のではない

け多くの人々を魅了しているし、今でも強く共感できます。

もちろん今回の高齢者向けパチンコ・パチスロのターゲットは福祉・保健・介護・医療などの現場であり、お金を使わないし賭けないけど、単純に遊びとして楽しくポイントを得て、それを様々なものに使えるという「熱狂できる要素」もちゃんと担保されています。エンタメ企業として、健康寿命の延伸に貢献したいというサミーさんの考え方に共感しました。

デイサービス施設が 高齢者のゲームセンターに

奥山 高齢者の身体機能の向上に関して、かつて「貯筋運動プロジェクト」という事業がありましたね。

佐藤 はい。母校である鹿児島県の鹿屋体育大学の学長だった福永哲夫先生が提唱したプロジェクトです。高齢者の体力・運動能力の低下を何とかしようと開発された、道具を使わず自分の体重で無理なく安全に行える筋力トレーニングです。

運動すれば筋肉が「貯まる」という考え方で、筋肉もお金と同じでいざというときのために貯めて

かと考えたのです。そこで市場調査も兼ねて、国内外の高齢者施設をいくつか見学しました。その結果、日本の高齢者施設で利用されている遊具には、エンタメ性が不足していると感じました。

米国をはじめとする海外の高齢者施設にはゲーム機が充実していて、男女を問わずゲームに熱中していました。また、低額ではありますがかじりと同じようにお金を賭けられる遊具を置いていところもありました。もちろん日本では、賭け事はできませんが、日本でも高齢者が熱中できるような遊具を開発したいと思うようになったのです。

奥山 日本の高齢者は「人に迷惑をおくことが大切です。突然、病気になって入院しなければならなくなっても、筋肉の貯えにゆとりがあれば、病院での治療を終えた後の社会復帰がスムーズに進む可能性が上がります。日本はもちろん台湾や韓国でも広まっています。

今回の高齢者向けパチンコ・パチスロにはゲームで得られるポイントを貯めるという考え方を取り入れました。サミーさんが、「貯筋」と同じような構造のポイント蓄積の健康事業を考えておられたことについて、本当に素晴らしいなと思いました。

船山 佐藤先生にご指摘いただきましたが、高齢者施設に導入される当社の筐体では、ゲームで獲得したポイントでコーヒーやお菓子などを得られるといった仕組みも提案しています。実際の具体的なポイント還元の内容については、施設の方で考えてもらっています。が、さまざまな事例も紹介しています。

奥山 熱中できるゲームのある施設なら、「明日も行こう」となるように思います。引きこもりがちな男性高齢者が人と交流する機会づくりにもつながるのではないのでしょうか。今後はデイサービス施設が

続きは、本誌4-5月号をご覧ください